**校長　藤井　光正**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **[めざす学校像]**  **１　「質実剛健」にして「文武両道」に励む生徒を育てる学校**質実剛健：夢実現のため躊躇せず挑戦しへこたれず諦めず地道に努力する気質  **２　母校への誇りと地域への愛を持ち続ける生徒を育てる学校**文武両道：勉強にも部活動にも行事にも真剣に全力で取り組むこと  **３　「骨太の人格」を備え21世紀を支える人材をつくる学校**骨太の人格：基本がしっかりとしていて決してぶれない心と体  **[生徒に育みたい力]**  ○　夢と志を語る力（社会に貢献する自分を想像する力／目標を具体的に語る力）　　　　　夢：将来実現させたいと思い描いている願い  ○　努力し続ける力（全力で学び続ける力／貪欲に挑戦し続ける力）　　　　　　　　　　　志：心に思い定めたある方向を目ざす気持ち  ○　人権を尊重し人と繋がる力（仲間をつくる力／仲間を支える力／仲間を率いる力）  **[教職員に望む力]**   * チームの一員として自らの役割を自覚し「生徒に育みたい力」を身につけさせる力（豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性） |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| **１　「夢と志を語る力」の育成**   1. 系統的進路指導（なりたい自分から逆算する指導／大学入試改革への対応）　**⇒　進路指導満足度H30年度80.5％を2021年度には90％** 2. 同窓会の人的資源活用のさらなる推進 3. 大教大教職コンソーシアム事業への参加促進／有識者による講演の充実 4. アドバンス教育コースの充実 5. 進路実現満足度の向上　⇒　**満足度80％以上を2021年度まで維持／その結果、国公立大現役進学者数H30年度53を2021年度には72**   **２　「努力し続ける力」の育成**   1. 高い部活動入部率の維持　⇒　**2021年度まで90％以上の維持（H30年度94％）** 2. 課外学習時間の増加　⇒　**H30年度（1月）平均1時間48分／人を2021年度には同２時間** 3. 講習等（ロングラン勉強会含む）参加講座数の向上　⇒　**H30年度平均10.3講座／人（3年生）を2021年度には12講座／人（3年生）** 4. スタディサポート2年10月時点成績の向上 ⇒ **H30年度41.7% を2021年度には45％**   **３　「人権を尊重し人と繋がる力」の育成**   1. 学校教育自己診断生徒会行事への積極的取組姿勢肯定率の向上　⇒　**2021年度まで90％以上の維持（H30年度92.8％）** 2. 高い部活動入部率の維持　⇒　**2021年度まで90％以上の維持〈再掲〉** 3. 地域、学校園等関係機関と連携した活動の充実 4. 人権教育・教育相談活動の充実といじめ防止   **４　「チーム八尾高」を支える教員力の向上**   1. 学校経営計画中期的目標を踏まえた目標設定（全教職員）とPDCAサイクルを意識した業務の推進 2. 若手教員を育てるOJTの充実と教職員間のコミュニケーションのさらなる活性化 3. 授業力向上のための取組の充実　⇒　**授業アンケート「授業満足度」H30年度平均3.2を2021年度には3.3** 4. 業務の効率化と時間の有効活用（生徒と向き合う時間の拡充） 5. 高大接続改革への対応と大学入学者選抜改革を見越した改革の継続 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　　年　　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　「夢と志を語る力」の育成 | 1. 系統的な進路指導 2. 大教大教職コンソーシアム事業への参加促進 3. アドバンス教育コース充実 4. 進路実現満足度の向上 | 1. 学びに向かう力・人間性等を評価する「総合的な探究の時間」を進路指導の初期段階に設定／担任以外の教職員も参加するクラス運営で多様な価値観を知り希望進路の選択肢を広く／国公立大学推薦入試にも対応した進路指導について検討 2. 大教大教職コンソーシアム事業を教   員志望生徒の進路指導の一環と位置  付け事業参加の意義を周知する   1. コース選択者の感想の周知などを通じて教職を本気でめざす生徒へのアプローチを強化する 2. 第一志望を譲らない進路指導を貫く   「カリキュラムマネジメントを考える会」で将来構想を進める中で進路実現満足度向上方策を探る | 1. 学校教育自己診断（生徒）の「進路指導満足度」を82％に（H30：80.5％）   国公立大学現役合格者数60  　　　　　　　　（H30：53）     1. 大教大教職コンソーシアム事業参加生徒数の増加　（H30：延べ32名） 2. 学校教育自己診断（生徒）「コース満足度」90％以上　　（H30：89.0％） 3. 「カリキュラムマネジメントを考える会」で2022年度までのカリキュラムと行事予定の案を策定する   （年度末までに10回以上開催）  進路実現満足度80％以上の維持  （H30：85.2％） |  |
| ２　「努力し続ける力」の育成 | (1) 高い部活動入部率の維持  (2) 課外学習時間の増加  (３) 講習等（ロングラン勉強会  含む）参加率の向上  (4) スタディサポート2年10  月時点成績の向上  (5) ICT機器等を活用した「主体  的・対話的で深い学び」の  充実 | (1) 部活動体験に特化したオープンスク  ールの継続実施／オープンスクール等における部員の活用  (2) 学習時間の記録と目標学習時間の設  定により学習の習慣化を図る  (３) 合格体験記の周知等により講習等へ  の参加を促進  (４) 部活動との両立を図るため「大阪府  部活動の在り方に関する方針」の趣旨  を徹底／HR等の場面で部活動と希  望進路実現を両立した生徒のエピソ  ードを紹介  (5) 短焦点型プロジェクターを活用した授業力向上研修の実施／ICT機器等を活用した授業のデータ化と活用 | 1. 入部率90％以上の維持   （H30年度94.0％）   1. 学習時間調査で課外学習時間を平均   で10％向上（H30：１時間48分）   1. 講習等（ロングラン勉強会含む）参加講座数平均を12講座／人（3年生）にする　　（H30：10.3講座／人）   (４) スタディサポート2年10月時点成績のA区分以上の生徒数を45％に  （H30：41.7％）  (5) ICT機器等を活用した授業に取り組む  教員数を60％に　（H30：52.7％） |  |
| ３　「人権を尊重し人と繋がる力」の育成 | 1. 主要学校行事満足度の向上 2. 高い部活動入部率の維持 3. 地域、学校園等関係機関と連携した活動の充実 4. 人権教育・教育相談活動の充実といじめ防止対策の充実 | 1. 生徒主体の主要学校行事（文化祭・体   育祭・マラソン大会）企画・運営をよ  り一層推進／はじめて6月に開催する体育祭の成功   1. ２(1)に同じ 2. 地域や近隣学校園との連携促進 3. 人権教育の充実／教育相談係会の機能強化（個別の支援計画の作成主体として学年と連携）／いじめ防止委員会の定例開催と迅速正確な事象対応 | 1. 学校教育自己診断（生徒）の「生徒会行事積極的取組姿勢肯定率」90％以上を維持　　　　　　（H30：92.8％） 2. ２(1)に同じ 3. 地域、学校園等関係機関との連携事業実施回数を前年度以上にする   （H30：20回）   1. 学校教育自己診断（生徒）の「人権教育肯定率」を70％以上にする（H30：68.3％）／学校教育自己診断（生徒）の「いじめ対策満足度」を85％にする（H30：81.3％） |  |
| ４　「チーム八尾高」を支える教員力の向上 | 1. ボトムアップのシステム化と10年先を見据えた学校改革の断行 2. 授業力向上のための取組の充実 3. 効率的な業務推進と超過勤務時間の縮減（生徒と向き合う時間の拡充） 4. 多様な媒体を活用した学校広報活動の推進 | 1. 「カリキュラムマネジメントを考える会」での自由な議論と校長通信「雑感」を通じた情報の共有、さらには意見聴取期間を経た決裁過程の定着で納得性の高い学校運営／「真面目な雑談」の推奨で多様なアイディアの収集 2. 同僚教員を対生徒役にした授業力向上研修／工夫のある授業等を校長通信「雑感」で紹介／ICT機器等を活用した授業のデータ化と活用（再掲） 3. 一斉退庁日の遵守と部活動ガイドラインに基づく部活動指導業務の管理 4. テレビ・ラジオ・新聞等の媒体を活用した広報活動への新規参入 | 1. 学校教育自己診断（教職員）の「学校運営への教員の意見反映」肯定率を80％に　　　　　（H30：70.9％）   学校教育自己診断（教職員）の「教職員  の課題共有と協力体制」肯定率を  60％に　　　　　（H30：54.5％）   1. 授業力向上研修（２回）   ICT機器等を活用した授業に取り組  む教員数を60％に（H30：52.7％）  　　授業アンケート結果平均を3.25に  （H30：3.20）   1. 超過勤務時間を前年度比５％縮減 2. 新たな広報媒体の活用（2件以上） |  |